

上野天神祭：魚町

魚町の「しるし」は、色鮮やかな水しぶきに囲まれ玉座に座る道教の不死の琴高仙人の像である。琴高仙人は中国では琴高として知られ、湖の畔で待っている弟子たちの目の前で鯉に乗って水から飛び出す姿で描写されることが最も多い。

「だんじり」の名前の「紫鱗」は文字通り「紫色の鱗」を意味し、新鮮な魚を意味する。魚屋は魚町（文字通り「魚の町」）の近くに多くあり、魚屋の魚がいつまでも新鮮なままであることを願って、名前が付けられたものである。また前後の妻梁の上部に記されている「庶尹充諧」（しゅいんまことにやわらぐ）は別称となっている。その意味は、役人たちの会談中の調和を願っていると言うものである。この別称は水引幕に描かれた中国古典の有名な多くの男性達に由来する。

水引幕には、音楽、囲碁、書道、絵画の4つの伝統芸術に秀でた賢者を表す「群賢琴棋書画図」である。胴幕には、伝説上の戦略家黄石公、前漢王朝の将軍張良（251－186BCE）、道教の不死医者 of 蝦蟇仙人、そしてもう一人の不老不死で貧しい病気の人を助けた有名な李鉄拐の4人が刺繍されている。前幕には、鮮やかな赤を背景に2人の三国時代の将軍、張飛（西暦221年）と関羽（西暦160～220年）が描かれている。見送幕は「群仙図」で、賢者の行列が描かれ、金色の龍が柱の上部を飾っている。